

拝 啓

いよいよ夏本番を迎え、より一層ご隆盛のこととお喜び申し上げます。

さて、この度、突然のお手紙を差し上げますことを、恐縮至極に存じ上げる次第でございます。小生、大脇準一郎は、数年前から牧野光先生が鋭意ご尽力されている「国際農業開発アカデミー」(IFDA)の設立準備活動をお手伝いしている一人であり、IFDA設立準備委員会事務局・東京本部長を仰せ使っている立場の者でございます。

この難事業を達成するには、広瀬知事様にご相談することが必須であるとの牧野先生のご意向に沿って、ご無礼を承知の上で、お手紙を差し上げる次第であります。

2015年、国連本部が大分県の国東宇佐地域を世界の農業遺産に選定しました。牧野先生は、直後にニューヨーク国連本部を訪問され、この国東宇佐地域に国際農業開発アカデミーの設立を申請されました。牧野先生の7年間の努力が実り、昨年、2021年11月1日に、アジア大陸では唯一の大学設立のための国連認証(ECOSOC、アドバイサリーステイタス)を受けられました。

国連当局によるこの認証の主要な要因は、次の三つが上げられると思われまます。

第1に牧野先生の恩師である遠山正瑛先生の業績が大きいと思われまます。遠山先生は97歳でご逝去されるまで、内蒙古の砂漠緑化でポプラ300万本を植林され、その業績を国連本部と中国政府も高く評価し、国連人道召賞、アジアのノーベル賞と称されるマグ・サイサイ賞を授与されました。内蒙古の現地に遠山正瑛記念館と銅像が建てられています。牧野先生は、遠山先生の右腕としてこの活動に現地で参画されました。第2に、牧野先生のIFDA創設を志す高邁な精神、穏やかなお人柄、幾多の困難をのりこえて継続される不屈の忍耐力に国連当局者達が感銘していること。オイスカ・インターナショナル渡辺福総裁の国連当局への陳情。第3に、微生物学者としての牧野先生の画期的な研究と地道な農業実践が高い評価を受け、全米食品局より、全米著作権を取得されましたことです。

ここで、この国連認証の現状について申し上げますと、認証を受けてから1年目を迎える「2022年11月1日までに、具体的なアカデミー設立の準備を進めるように」とのアドバイスが、国連当局から届いております。この件について、宮田清蔵先生(元東京農工大学長)に相談すると、「農工大は国立であるので、なかなか動きづらい。私立ならば、自由度がある。大学設置審議会委員をして居た頃、大分県の農業大学校の状況を聞いた。県当局と相談して文科省の留学生受け入れ充実化計画、さらには地域活性化計画も組み入れて農業大学設立を目指したら良いのでは？」との御助言をいただきました。

た。

この度、貴県に陳情させて頂くことに至りましたのは、牧野先生が長年受け皿を探して東奔西走されて来ましたが、「梅の花が咲いている所を求めて南へ下った人が、帰ってみたら自分の家の庭に梅の花が咲いていた」という例えのように、身近な所に解決策が存在するのではないかと感じたからでございます。

私共の念願が叶い、貴県がこの「国際農業開発アカデミー」の設立の基軸となっていたのであれば、東京農大、九州大学や、筑波大学の国際科学振興財団等の関連する大学や団体との連携も円滑に進むことが大いに期待されるところでございます。

本件に関しましては、牧野先生の御意向に沿って、文章を認めさせて頂きました。広瀬知事様は、この「国際農業開発アカデミー」(IFDA)の設立準備活動の当初において、ご関心を寄せて頂き、ご助言を下されたことを、牧野先生からお聞きしております。つきましては、広瀬知事様に対しまして、その後の経過を牧野先生が直接報告する機会を賜りますよう切にお願い申し上げます。

国連当局も、世界農業遺産として登録された由緒ある国東・宇佐地域に世界初の国際農業機関が設立されることを期待しているとのことでございます。

希望溢れる未来を拓きたいという私共の願いに対し、温かいご理解とご英断を賜りますよう切望する次第でございます。

敬 具

令和4年7月1日

大脇準一郎 拝

国際農業開発アカデミー設立準備事務局東京本部長
NPO 法人未来構想戦略フォーラム/地球市民機構（市民国連）共同代表

大分県知事 廣瀬勝貞 殿